

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成27年6月11日(2015.6.11)

【公表番号】特表2014-518662(P2014-518662A)

【公表日】平成26年8月7日(2014.8.7)

【年通号数】公開・登録公報2014-042

【出願番号】特願2014-506875(P2014-506875)

【国際特許分類】

A 6 1 M 5/34 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 5/34

【手続補正書】

【提出日】平成27年4月16日(2015.4.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

- 内側本体（7207）と、
- ロックアウト要素（7200）と、

を備えた、薬物送達デバイスと共に使用するための投薬インターフェースであって、

- ロックアウト要素（7200）は内側本体（7207）に連結され、
- ロックアウト要素（7200）は受け状態からロック状態へ可動であり、

受け状態において、投薬インターフェース（7205）を薬物送達デバイスに取り付け可能であり、

ロック状態において、投薬インターフェース（7205）を薬物送達デバイスに取り付け不可であり、

ロックアウト要素（7200）は、該投薬インターフェース（7205）が該薬物送達デバイスに取り付けられ、およびそれから取り外されたとき、受け状態からロック状態に動くように構成され、

ロックアウト要素（7200）は少なくとも1つのばね要素（7202a、7202b）を備え、ばね要素（7202a、7202b）が、組み合わせ渦巻き・コイルばね（7202a、7202b）である、上記投薬インターフェース。

【請求項 2】

- ロックアウト要素（7200）は受け状態から起動状態へ可動であり、

起動状態において、ロックアウト要素（7200）は、投薬インターフェース（7205）が前記薬物送達デバイスから取り外されたとき、ロック状態に動くように構成され、

ロックアウト要素（7200）は、投薬インターフェース（7205）が該薬物送達デバイスに取り付けられたとき、受け状態から起動状態へ動くように構成される、請求項 1 に記載の投薬インターフェース。

【請求項 3】

ばね要素（7202a、7202b）は、受け状態において第 1 の方向へ緊張し、起動状態および / またはロック状態において第 2 の方向へ少なくとも部分的に弛緩し、第 2 の方向は第 1 の方向と反対である、請求項 1 または 2 に記載の投薬インターフェース。

【請求項 4】

ばね要素（７２０２ａ、７２０２ｂ）は、起動状態において第２の方向へ部分的に弛緩し、ロック状態において第２の方向へさらに弛緩する、請求項３に記載の投薬インターフェース。

【請求項５】

ばね要素（７２０２ａ、７２０２ｂ）は、起動状態において第３の方向へ緊張し、受け状態および／またはロック状態において第４の方向へ少なくとも部分的に弛緩し、第４の方向は第３の方向と反対である、請求項３または４に記載の投薬インターフェース。

【請求項６】

- 組み合わせ渦巻き・コイルばね（７２０２ａ、７２０２ｂ）は、螺旋軸（７２０６）の周りでその両端部を互いに反対に動かすことにより第１の方向へ緊張し、

- 組み合わせ渦巻き・コイルばね（７２０２ａ、７２０２ｂ）は、螺旋軸（７２０６）に沿った圧縮により第３の方向へ緊張する、

請求項５に記載の投薬インターフェース。

【請求項７】

ばね要素（７２０２ａ、７２０２ｂ）は、第１の端部に第１の成形要素（７２０８）を備え、第２の端部に第２の成形要素（７２１０）を備える、請求項３～６のいずれか１項に記載の投薬インターフェース。

【請求項８】

内側本体（７２０７）は、ばね要素（７２０２ａ、７２０２ｂ）の第１の成形要素（７２１０）がポジティブフィットにより内部に着座する保持要素（７２１２）を備える、請求項７に記載の投薬インターフェース。

【請求項９】

- 内側本体（７２０７）は案内トラック（７２１４）を備え、

- ばね要素（７２０２ａ、７２０２ｂ）の第２の成形要素（７２１０）は案内トラック（７２１４）内で可動に案内され、

- 案内トラック（７２１４）は、受け部（７２１６）、起動部（７２１８）、および遮断部（７２２０）を備え、

- 受け状態において第２の成形要素（７２１０）は受け部（７２１６）に配置され、

- 起動状態において第２の成形要素は起動部（７２１８）に配置され、

- ロック状態において第２の成形要素（７２１０）は遮断部（７２２０）に配置される、請求項７または８に記載の投薬インターフェース。

【請求項１０】

- 第２の成形要素（７２１０）は、受け部（７２１６）に配置されている間、第３の方向に起動部（７２１８）へ可動であり、

- 第２の成形要素（７２１０）は、起動部（７２１８）に配置されている間、第４の方向に遮断部（７２２０）へ可動であり、

- 第２の成形要素（７２１０）は、遮断部（７２２０）に配置されている間、第３の方向に遮断される、請求項９に記載の投薬インターフェース。

【請求項１１】

- 第２の成形要素（７２１０）は、受け部（７２１６）に配置されている間、ばね要素（７２０２ａ、７２０２ｂ）によって加えられる弾性ばね力により案内トラック（７２１４）の第１の支持部分（７２２２）に対して第２の方向に押圧され、

- 第２の成形要素（７２１０）は、起動部（７２１８）に配置されている間、ばね要素（７２０２ａ、７２０２ｂ）によって加えられる弾性ばね力により案内トラック（７２１４）の第２の支持部分（７２２６）に対して第２の方向に押圧され、

- 第２の成形要素（７２１０）は、遮断部（７２２０）に配置されている間、ばね要素（７２０２ａ、７２０２ｂ）によって加えられる弾性ばね力により案内トラック（７２１４）の第３の支持部分（７２３２）に対して第２の方向に押圧され、

- 第３の支持部分（７２３２）は第２の支持部分（７２２６）に対して第２の方向に位置決めされ、

- 第２の支持部分（７２２６）は第１の支持部分（７２２２）に対して第２の方向に位置決めされる、請求項９または１０に記載の投薬インターフェース。

【請求項１２】

ばね要素（７２０２ａ、７２０２ｂ）および案内トラック（７２１４）は、投薬インターフェース（７２０５）が前記薬物送達デバイスに取り付けられたとき、薬物送達デバイスの遠位部分がばね要素（７２０２ａ、７２０２ｂ）に作用するように、該ばね要素（７２０２ａ、７２０２ｂ）が第３の方向へ緊張し、第２の成形要素（７２１０）が受け部（７２１６）から起動部（７２１８）へ移動するように、該ばね要素（７２０２ａ、７２０２ｂ）が第２の方向へ部分的に弛緩するように、構成される、請求項１０または１１に記載の投薬インターフェース。

【請求項１３】

ばね要素（７２０２ａ、７２０２ｂ）および案内トラック（７２１４）は、投薬インターフェース（７２０５）が前記薬物送達デバイスから取り外されたとき、薬物送達デバイスの遠位部分が該ばね要素（７２０２ａ、７２０２ｂ）から後退するように、該ばね要素（７２０２ａ、７２０２ｂ）が第４の方向へ少なくとも部分的に弛緩し、かつ第２の成形要素（７２１０）が起動部（７２１８）から遮断部（７２２０）へ自動的に動くように、該ばね要素（７２０２ａ、７２０２ｂ）が第２の方向へさらに弛緩するように、構成される、請求項１０～１２のいずれか１項に記載の投薬インターフェース。

【請求項１４】

ロックアウト要素（７２００）は、薬物送達デバイスの遠位部分を支承するように構成されたカバー板（７２０４）を備え、カバー板（７２０４）はばね要素（７２０２ａ、７２０２ｂ）上に支持される、請求項１～１３のいずれか１項に記載の投薬インターフェース。

【請求項１５】

- 請求項１～１４のいずれか１項に記載の投薬インターフェース（７２０５）を備え、
- 薬物送達デバイスを備え、
- 投薬インターフェース（７２０５）は薬物送達デバイスに取外し可能に取り付けられる、
装置。